

和歌山城周辺 修景整備ガイドライン

概要版



和歌山市の中心部では、大学誘致や市街地再開発事業、公共施設の再編、無電柱化事業、市堀川の水辺のまちづくり事業などを実施し、県都としてふさわしい充実した都市機能と良好な景観を有するコンパクトシティを推進しています。

また、和歌山城などの歴史遺産や紀の川などの豊かな自然を核とした観光形態となっており、国内外問わず、多くの観光客が来訪されています。今後、魅力的な観光地づくりを推進するためには、周遊性の向上や和歌山市固有の歴史・文化への理解を深めるための案内サイン等の多言語化、効果的な配置が求められます。

和歌山城周辺修景整備ガイドラインは、「城下町和歌山にみる歴史的風致」の維持と向上に寄与することを目的として、和歌山城や JR 和歌山駅、南海和歌山市駅周辺の修景整備や案内サインのガイドラインとして策定しました。

なお、本ガイドラインは、和歌山市景観計画に定められている景観誘導（行為の制限）ではありません。

1. 修景整備

景観特性に応じた良好な景観形成に取り組むために、歴史的なエリア、商業的なエリア、沿道エリアの3つの景観特性に応じて、景観を悪化させている要素に対して改善を図っていくための考え方を示します。

歴史的なエリア



和歌山城、風致地区
寺町通り

商業的なエリア

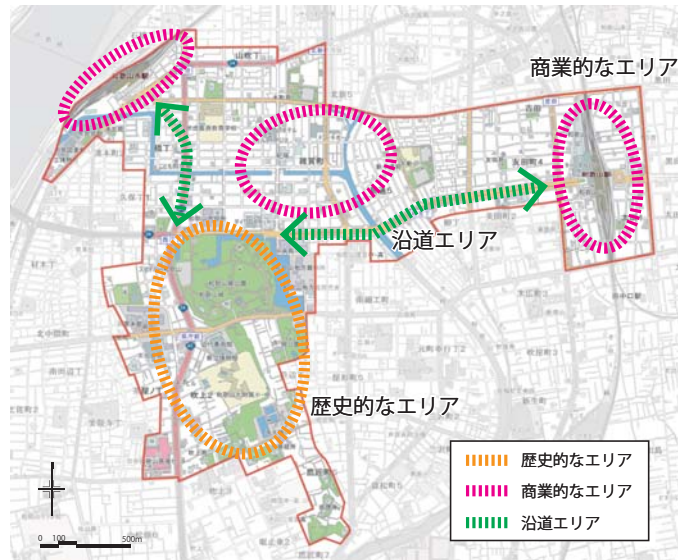


JR 和歌山駅
南海和歌山駅
ぶらくり丁周辺

沿道エリア



けやき大通り
中央通り



● 共通の修景整備方針

① 舗装

- ・ 舗装自体が目立ちすぎないように配慮する
- ・ 舗装の種類や色彩がちぐはぐにならないように配慮する
- ・ 舗装を修繕する際は、極力同じ舗装の種類を使用する
- ・ 歩行性や道路の性格に相応しい舗装種類を選定する
- ・ 景観性や意味性を考慮して、舗装種類を選定する
- ・ 点字ブロックは歪な線形にならないように配慮する

② 柵類

- ・ 沿道特性に応じて、防護柵の設置の必要性を検討する
- ・ シンプルな部材で構成された形状とし、装飾は極力しない
- ・ 柵類の色彩は、高彩度は使用しない
- ・ 周辺の景観と馴染ませることを前提とし、材質や色彩、バリアフリーの観点に配慮して整備する
- ・ 周辺の構造物（照明柱や信号機など）と、類似する色彩やデザインとし、周辺との統一性に配慮する

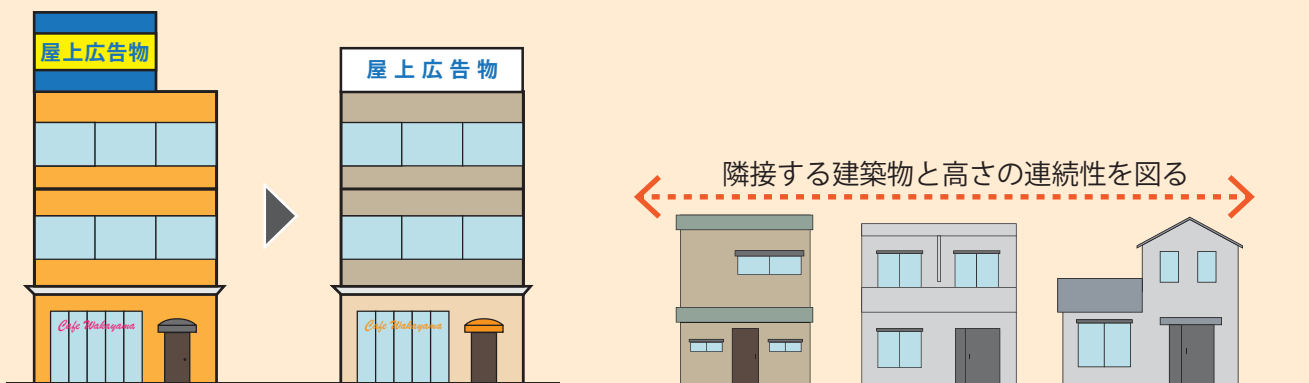
● 歴史的なエリアの修景整備方針

① 建築物及び工作物の位置・高さ

- ・ 和歌山城周辺は、和歌山市景観計画（和歌山城周辺景観重点地区）の景観形成基準に則りながら、隣接する建築物との位置や高さの連続性の確保と和歌山城からの眺望に配慮する
- ・ 風致地区やその周辺は、低層の建築物を基本として、隣接する建築物との高さを揃え、連続性を確保する

② 建築物及び工作物の色彩

- ・ 景観を混乱させる騒色を使用せず、まとまりのある色彩環境を形成し、歴史や文化が感じられるようにする
- ・ 建築物の外壁など面積が大きいものは、低彩度を基本として、必要以上に色数を増やさない
- ・ 明度や彩度、色相などの差が生じないように配慮し、歴史的なエリアの環境に合う色彩で揃える



③ 屋外広告物

- ・ 高彩度を使用する場合は、使用する面積を抑えたり、色数を少なくしたりすることによって、効果的に情報伝達ができるように工夫した配色とする
- ・ 地上部に設置される屋外広告物（幟旗や自動販売機など）は、歴史的なエリアに馴染むような落ち着いた色彩とする
- ・ 歴史的なエリアにおいては、歴史や趣を感じるような素材（木材、石材など）を積極的に活用する
- ・ 屋外広告物は、定期的に点検等を実施し、破損や老朽化していないか確認する

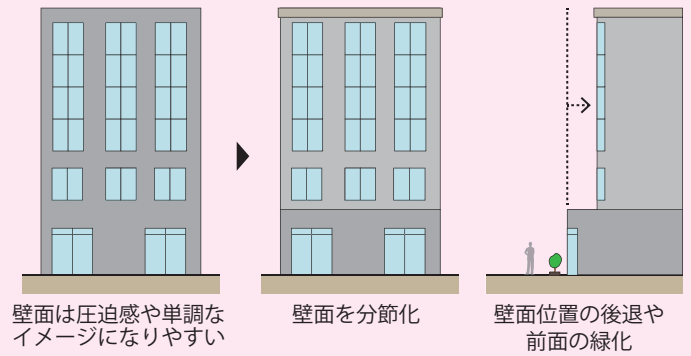
●商業的なエリアの修景整備方針

①建築物及び工作物の位置・高さ

- ・大規模建築物及び工作物においては、単調なイメージや圧迫感を軽減するために建築物の分節化や壁面位置の後退、前面の緑化などを図る
- ・低層の建築物においては、隣接する建築物と高さや壁面位置を揃え、連続性を図る

②建築物及び工作物の形態・意匠

- ・周辺の景観と馴染ませるために、建築物のファサードデザインやスカイライン、外観の色彩に連続性を持たせ、建築物が立ち並ぶ空間の統一性を図る
- ・大規模な建築物及び工作物は、単調な印象や圧迫感を感じないようにするために、建築物の分節化や意匠に変化を持たせる
- ・屋上設備や付属施設は、通り沿いや視点場からの見え方に配慮し、目隠しや色彩、意匠によって目立たないようにする



③建築物及び工作物の色彩

- ・隣接する建築物等は、明度や彩度、色相などの差が生じないように配慮し、色調（トーン）を揃える
- ・面積が大きく基調となる色については、明度が低いと暗く硬い印象をあたえるため、適度に高い明度を使用する
- ・商業的なエリアとして賑やかさを演出するために、彩度や明度がやや高めアクセント色を使用する

④屋外広告物

- ・商業的なエリアでは、適度に鮮やかな色彩を活用し、にぎわいを演出する。ただし、使用する面積を抑えたり、色数を減らすなど、煩雑な印象にならないように注意する
- ・商業的なエリアは、屋外広告物の数が多くなりやすいため、規模や位置、デザインなどを隣接する屋外広告物と整合を図る
- ・建築物等に複数の屋外広告物を設置する際は、位置や規模などを揃えて、秩序のある配置とする
- ・映像装置付き広告物は、建築物との一体性や音量、明るさに配慮する
- ・屋外広告物は、定期的に点検等を実施し、破損や老朽化していないか確認する

●沿道エリアの修景整備方針

①建築物及び工作物の位置・高さ

- ・個人商店や住宅などの低層建築と、中高層ビルが混在しており、スカイラインに凹凸がある景観となっているため、隣接する建築物の高さの連続性を図る
- ・連続する建築物の壁面位置は統一し、一体的な空間となるように配慮する。壁面位置を後退する場合は、歩道と民地の境界が目立たないように工夫し、緑の創出や快適な歩行空間を整備する

②建築物及び工作物の形態・意匠

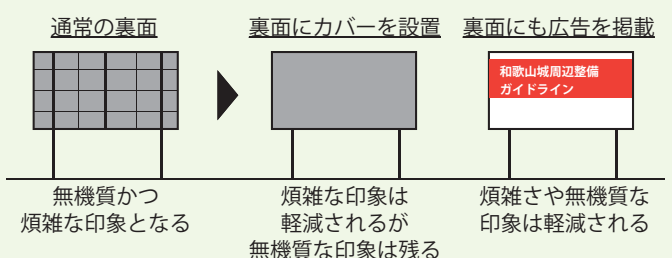
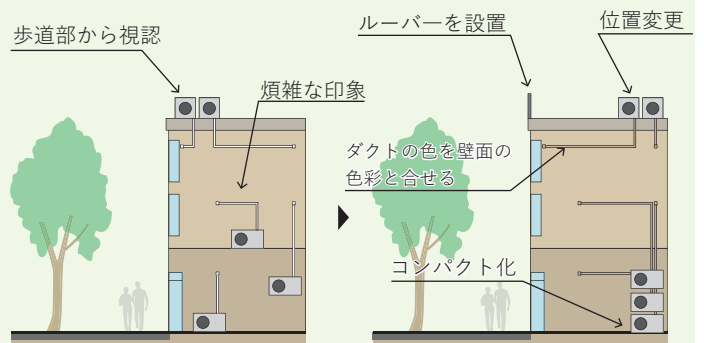
- ・沿道エリアに発生し始めている低未利用地によって建築物は正面だけでなく側面部も視認されることも多いため、付属施設は通り沿いや視点場からの見え方に配慮し、目隠しや色彩、意匠によって目立たないようにする

③建築物及び工作物の色彩

- ・建築物の基調となる色は、周辺の景観や色彩環境と馴染むように色相や色調（トーン）を揃えるなどに配慮し、高彩度の色は使用しない

④屋外広告物

- ・屋外広告物は、規模や表示内容を揃えて、煩雑な景観になることや、交通標識の妨げにならないように配慮する
- ・屋外広告物は、周辺の景観を考慮して、目立ちすぎる屋外広告物にならないように、設置位置や色彩（色数、彩度など）、規模について配慮する
- ・独立広告物は、表面だけでなく、裏面も視認されることを意識し、骨組みが見えにくいように、設置位置や裏面にも屋外広告物を配置するなどの配慮をする



2. 案内サイン整備

案内サイン整備の目標

誰にとってもわかりやすく、利用しやすい案内サインであることに加え、景観に馴染む案内サインの整備を実施するための考え方を示します。

やさしい情報提供

- 直感的にわかりやすい表示
- 多言語化への対応
- ユニバーサルデザインへの配慮
- 観光客が求める情報の提供

快適な歩行空間

- 回遊性の向上
- 適切な場所へのサイン配置

景観との調和

- 周辺の景観を阻害せずに、馴染むサインの設置
- 景観と馴染む素材や配色

躯体種類別のデザイン方針

総合案内サイン	誘導サイン	説明サイン
<ul style="list-style-type: none">歴史的な景観を有している場所は、和のテイストを感じられるデザインとする駅周辺のような都市的な景観を有している場所は、現代的なデザインとする和歌山城公園や岡公園内は、歴史的な雰囲気を阻害しないようにシンプルなデザインとする	<ul style="list-style-type: none">新たに誘導サインを整備する際は、周辺の誘導サインのデザインと整合を図り、景観上の統一を図る和歌山城公園内は矢羽型、市街地は短冊型を基本とする	<ul style="list-style-type: none">細い支柱を用いた説明サインを基本デザインとして、統一を図る記載しきれない情報量がある場合は、躯体の規模を検討し、設置する和歌山城公園や岡公園内の説明サインは、歴史的な雰囲気を阻害しないようにシンプルなデザインとする

躯体の素材や色彩における整備方針

- 素材は、汚れや摩耗性、燃焼性、耐候性など外的要因による経年劣化が生じないような素材や仕上げを基本とする
- 色彩は、目立つ色彩（高彩度）などを使用せずに、周辺の景観と馴染む色彩を基本として躯体を整備する

案内サインの配置計画

- 案内サインの過剰な配置を避け、利用者が多い場所に必要な案内サインを配置する
- 観光などの出発地点から目的地まで円滑に移動ができるように情報の連続性を確保する
- 周辺の景観への配慮や点字ブロック周辺など、案内サインを必要としない人へ配慮した配置とする
- 埋設物などが地中にある場合は、その位置を避けるか、据置型などの案内サインを設置する
- 史跡内に案内サインを設置する場合は、史跡に影響を与えない範囲で設置する

板面における情報量

- 必要となる情報を案内サイン整備前に検討する
- 統一的なグラフィックデザインをとり、案内サインによって異なる情報を掲載しないように配慮する
- ピクトグラムや図、記号を活用し、情報量をコントロールする
- 文字の大きさや配色を工夫して、伝えたい情報を明確化する
- 携帯端末のマップやWebサイトと連携する
- QRコードを活用した対応をする

ピクトグラム

- 他の市町村などと統一を図り、齟齬が生じないようにするため、「JIS案内図記号」を使用することを推奨する

配色

- 色数が多いと見えにくくなるため、必要以上の色は使用しないようにする
- 寒色系同士や暖色系同士の色の組合せは使用しないようにする
- 板面（背景）と文字に明度差をつけるようにする

表示言語の表記方法

- 多言語表記は、日本語と英語を基本とする
- 表示板面の情報量に余裕がある場合は、4～5カ国語表記も検討する
- 表示板面の情報量に余裕がない場合は、QRコードによりWebサイトなどへアクセスできるように、相互連携を図る

書体及び文字サイズ

- 可読性や視認性、識別性の高い書体を基本とする（ユニバーサルデザインフォントを推奨）
- 案内サインの板面の文字のサイズは、想定する視距離に応じて変更する

地図の掲載情報

- 地図には、情報を掲載しすぎると煩雑になるため、情報量に配慮する
- 地図上に、地図記号やピクトグラム等を使用する
- 重要な箇所や拠点においては、日本語だけでなく英語表記も追記する
- 方位や現在地、スケールは分かり易い場所に表示する
- 総合案内サインの設置位置を表示する